

森林が泣いている・・・

—あなたは、森の叫びが聞こえますか？—

2001年1月7-8日。希望に満ちた21世紀の幕開け直後に全国各地でひき起こされた大雪害。その大雪は都市部の交通網を麻痺させ、それが農山村の森林では樹に降り積もった雪の重みで、至る所の森林がなぎ倒されたり、割れ裂けて悲壮感の漂う悲惨な状態になっています。もちろん、この房総半島はかつて海底であった関係で、国立競技場のグラウンドでも使用される程の優良な砂が採れる関係から、全国有数の採砂場銀座と化しています。その為、房総丘陵ではみなさんご存知のように君津・木更津周辺の山が虫食い状態に“採砂場”で森林が切り倒され、“大雪害”と“採砂場”の二重の苦しみに直面しています・・・

今、全国各地で森林の荒廃が進み、私たちがオリエンテーリングでお世話、そして楽しませてもらっている森林が、“助け”を求めています・・・そこで、これから「O-マガジン」誌上をお借りして、自然災害や森林開発で窮地に立たされているオリエンテーリングの競技場である森林をレポートしていきます。

房総丘陵はオリエンテーリングのメッカ

『久留里』『天恵米の里』『君津糸川』『神野寺』『七曲川』『いっぱい水』『上総富士』『宝竜寺』・・・千葉県の君津市・木更津市に位置する房総丘陵には、かつてインカレやインターハイ、さらには公認大会など多々有名な大会が開催され、その良質なトレインを求めて合宿や練習会が幾度も開催され、近年では東京近郊の合宿・練習会の重要なエリアとして、オリエンテーリング界の発展に寄与してきました。



雪の重み・突風で真中から折れ割けたスギ in「久留里」

しかし、その裏では優良な砂質と立地条件のよさから、鋸山に代表されるように早くから採砂地として森林開発が進んできました。上に挙げられたトレインのほとんどに採砂場があり、地図のリメイクの毎にその採砂場の拡大を痛いほど伝わってきました。

房総丘陵は手入れの行き届いた美林で有名

さらに、外材輸入の圧力によって現在国内林業は瀕死の状態にあり、ご存知のように全国的に放置される森林が年々増加しつつあります。千葉・房総丘陵に位置するこれらのトレインも例に漏れず、年々放置される森林が増加してきました。しかし、地元森林組合をはじめとする所有者の献身的な森林への熱意によってや、一部が国有林として管理されているなどの理由により、何とか綺麗に手入れされた美林が随所に広がっていました。しかし・・・

2001年1月、大雪害が関東の美林を襲う・・・

2001年1月。夢と希望に満ちた21世紀の幕開け直後に全国各地で猛威を振るった大雪が、所有者によって何十年も手入れが施された森林に壊滅的なダメージを引き起こしました。水分が多く含まれたその大雪が樹冠に降り積もると共に突風が吹き付け、その重みに耐え切れずに至る所の森林がなぎ倒されてしまうという、大雪害を引き起こされてしまいました。

雪の重みに耐え切れず、

樹の真中から折れ果て、無残な姿を見せる森林・・・

雪の重みに耐え切れず、

樹が左右に折れ曲がり、痛々しい姿を見せる森林・・・

もう、かつての手入れが行き届いて、遠くまで見通せるような美林は、そこには残っていませんでした・・・ どこに行けども、その痛々しい悲壮感を漂わせる森林。その場に直面したら、言葉も出なくなるような悲惨な状況でした。優良な木材を生産すべく手入れが施された森林でも然りです。

人工林とは、苗木を育てるところからはじまり、「地拵え」、「植栽」、「下草刈り」、「枝払い」、「除伐・間伐」といった多くの作業が林業家の手によって施されているのです。しかも、それは苗木が植栽されてから伐採に至るまで約40～50年、休むことなく手入れが続けられ、いわば森林は“盆栽”を手入れする様に非常に手がこんで、林業家にとっては非常に愛着の抱く財産なのです。

今、森林所有者たちは・・・

これらの森林は、木を山に植えてから現在の立派な森林が育つまで何十年も毎年毎年手入れを施され、いわば可愛い我が子の様に育てられてきた、深い愛着が抱かれている森林です。しかしそれをあざ笑うかのように、今回の大雪で森林は見るも無残に倒れ果ててしまっていました。経済面での辛さはもちろんですが、大事に育ててきた木々が折れ果てる、という精神面の辛さは、比較にならないものなのでしょう。

それにも関わらず、大雪害を受けた後も森林ではお金にならないのを承知で多くの森林所有者が、「周りに迷惑をかけては申し訳ない」とか「そのまま放置しては山に申し訳ない」という理由で、大雪害によって壊滅的な被害を被った木々の残骸が散らかる森林を整理していたのです。その山にこだまする、荒れ果てた森林を整備する“チェーンソー”の音に、何とも言えない哀愁を感じていました・・・

私たちオリエンテーリング愛好者は、このような素晴らしい林業家に支えられてこそ成り立っている森林があってこそ、オリエンテーリングの競技場は成り立ち、そして今までその手入れが行き届いた森林でオリエンテーリングを楽しませてもらっているのだという事を、改めて痛感しました。

15年前にも首都圏近郊で森林が被った大雪害・・・

しかし、ふと思い返してみると、かつて同じように森林が壊滅的なダメージを被ったことがありました。

それは今からちょうど15年前の昭和61年3月、首都圏の交通網を麻痺させた記録的な積雪量を残した大雪です。この大雪は、首都圏近郊の森林に壊滅的なダメージを与える結果も導いていたのです。単純でも約300億円もの被害額を記録したこの大雪害は、長年にわたる木材不況の影響や地代の高騰に伴い放置林が増大した首都圏近郊の林業家の経営意欲の減退に追い打ちをかけるように、所有者の経営意欲を完全に断ち切ってしまうました。その為、後には大雪害でボキボキと折れ曲がり、沢底を中心に山は倒木でうめつくされてしまいました。そこには、オリエンテーリングで多くの愛好者を魅了し、楽しまれ、そして想い出

が残されていった森林の姿は見る影もなくなっていました。そこには倒木でうめつくされた殺伐として鬱蒼とした、寂しげな森の姿しか残っていませんでした・・・ このように荒れ果てた森林の大部分は、都市住民はもちろん森林所有者でさえ目もくれず、ただ時の流れとともに放置されるしかありませんでした。



大雪害による倒木で疎林状態になった森林 in「君津糸川」

新たに生まれた“森”と“人”との関係性「森づくり活動」

しかし、一方ではその時大雪害によって被害を受けた森林を、地域住民や都市住民で整備する活動、「森林ボランティア」が生まれていたのです。それを皮切りに、今では全国各地で600近くの団体・グループが様々な森の手入れに加わっていく時代になりました。それは、森林の「ボランティア」として“どうか森を助けたい”、という意志をもった方もいれば、“レジャー林業”といわれるような大自然の中で森林づくり活動を楽しんで、心身ともリフレッシュしたいという方もいるなど、多種多様な形態が生まれてきています。

今日では、森林はただ単に木材資源提供の場としてだけでなく、水資源の確保や国土環境保全、さらには生物多様性の確保やレクリエーションの場等と、国民のニーズは多種多様になってきています。それに伴い、国民全員でこの様な様々な機能を有した森林を護っていく気運が高まっており、全国各地で“森づくり”活動がはじまっています。

オリエンテーリングも“使い捨て”から“共存”へ!!

15年前の東京近郊で起こった大雪害で、東京近郊のトレインは倒木が沢を中心に埋もれ果て、多くのトレインが見向きもされずに“使い捨て”されてしまいました。

しかし、これからは造成や開発によるトレイン減少に加え、自然災害による森林荒廃に伴い、わが国のオリエンテ

ーリング界は競技場の減少という難題を抱える状況になってきています。そこで、オリエンテーリング愛好者として、また一都市住民として、私達オリエンティア自身で創り上げた“スーパーAが延々と続く美林”で、私たちと共に子ども達が楽しそうにオリエンテーリングを楽しんでいる... こんな

夢のような光景を抱きつつ、“森づくり活動”を取り組んでいく事も素敵な事ではないでしょうか。

これからは、トレインが如何に被害に受けてようと、トレインを“使い捨て”せずに、私達オリエンティアで力をあわせてトレインを整備して、森林と“共存”していきませんか？

[森づくり全般について] 関東学連HP内「森林を学ぼう!!」 <http://www.geocities.co.jp/Athlete-Olympia/2366/information/manners1.html>
[OLerの森づくり活動] オリエンティア森林育林体験研究会 木俣 (kima--@docomone.jp) ご意見・ご感想などご自由にお寄せ下さい。

